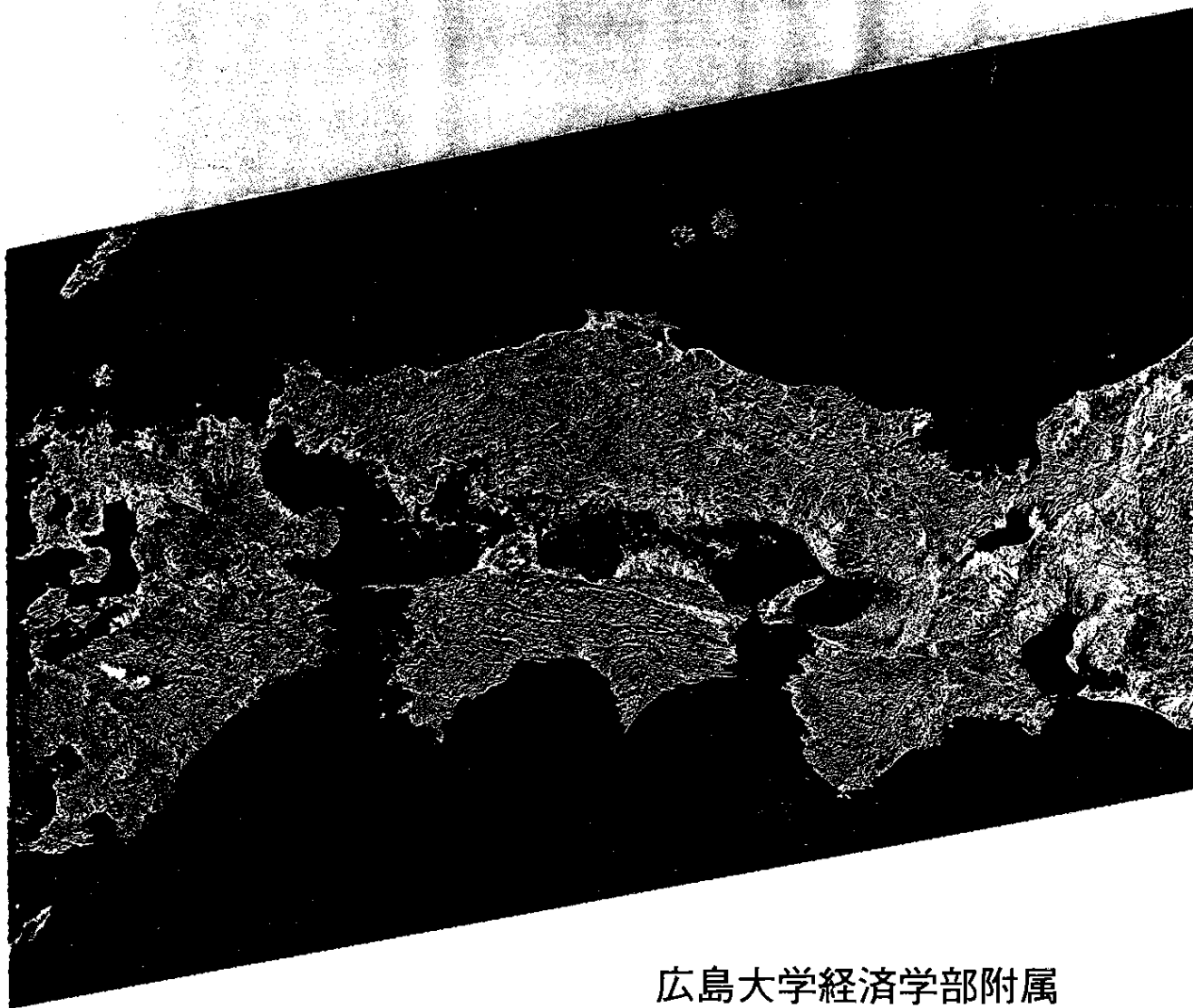


第4回研究集会報告書

中国・四国地域の連携：バージョン1



広島大学経済学部附属
地域経済研究センター編

地域経済研究推進協議会

目 次

まえがき	櫛本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長) ……	1
プログラム	……………	3
開 会 式		
挨拶	櫛本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長) ……	5
	中島 正雄 (地域経済研究推進協議会会長) ……	7
基調講演		
「四全総の総合的点検と今後の課題」		
	榎谷 真平 (国土庁計画・調整局長) ……	9
パネル討論会	……………	24
「中国・四国地域の連携：バージョン1」		
司 会	櫛本 功 (広島大学経済学部教授)	
発 言 者	深野 和夫 (山陰合同銀行会長)	
	岩城 正之 (日本開発銀行広島支店長)	
	和氣 成祥 (広島県豊田郡瀬戸田町長)	
	田中 有男 (いよぎん地域経済研究センター取締役社長)	
助 言 者	榎谷 真平 (国土庁計画・調整局長)	
研究報告		
「高速自動車道の開通整備に伴う地域経済効果」		
	矢田 肇 ((社)中国地方総合研究センター第一研究部主任研究員) ……	64
「広島都市圏における年収5倍のマイホーム実現のために」		
	合谷 和洋 ((財)ひろぎん経済研究所調査研究部次長) ……	79
「岡山県民の余暇・レジャー動向」		
	小川 雄三 ((財)岡山経済研究所研究員) ……	91
「生きがい産業への道」		
	吉田 幹男 ((株)地域デザイン研究所所長) ……	103
「山陰におけるFAZ(フォーリン・アクセス・ゾーン)の可能性」		
	森田 輝雄 ((株)山陰経済経営研究所調査役) ……	113
「愛媛県内女性の就業意識と変わりゆく労働環境」		
	正岡 啓 ((株)いよぎん地域経済研究センター取締役調査部長) ……	132
「山口県の人口問題と地域づくり」		
	宗近 孝憲 ((財)山口経済研究所研究員) ……	151
あとがき	中島 正雄 (地域経済研究推進協議会会長、 中国経済連合会専務理事) ……	171

まえがき

本書は、広島大学経済学部附属地域経済研究センターおよび地域経済研究推進協議会が、平成5年1月13日・14日の両日、広島県民文化センターにおいて「中国・四国地域の連携：バージョン1」をテーマに開催しました第4回研究集会の報告書です。

今回の研究集会も、例年通り二日間にわたって開催されました。初日は、基調講演とパネル討論会を行い、二日目は、中国および四国地域を代表する七つの民間シンクタンクから、地域経済に関する研究をご報告頂きました。

初日の基調講演とパネル討論会は、新たに作成される第五次全国総合開発計画に向けてのご討論を頂きました。基調講演者には、国土庁の糠谷真平計画・調整局長をお招きしました。糠谷局長は、四全総を作成する時の担当課長であり、そして五全総作成の担当局長になられます。糠谷局長にわれわれの地域のご理解を賜り、われわれの意見をお聞き頂きたいと、中国および四国地域から有力なパネリストをお呼びしました。

中国地域は、人口にして775万人、四国地域は420万人に過ぎず、中国と四国を別々にみると、それぞれ小さすぎて、全国の中で無視され勝ちです。東京などの中央からみれば、影が薄くて無きに等しい存在です。けれども中国と四国が連携すれば、人口にして1,200万人であり、東京都や、新潟県を含む東北地域、それに1,330万人の九州地域に匹敵する大きさになります。

しかも本州と四国の間には3本の橋がかかり、平成10年には開通します。そしてさらには「安芸防予Qルート」の第4架橋も構想され、中国・四国における新たな交流の必要条件が整備されつつあります。

もともと中国と四国は、歴史以前から第1国土軸であった瀬戸内海を共通の場として、政治・経済・社会・文化その他の交流をしてきました。海が、そして海運が交流の基盤となっていたのです。けれども海ではなく陸が、そして陸運が交流の主体となって、中国と四国の交流が薄くなりました。しかし今や本州四国連絡橋の整備によって、海運に加えて陸運の機会が開け、ふたたび本州と四国との間で新たな交流がわきあがろうとしています。

こうした状況に直面するわれわれは、何をすべきでしょうか。そして五全総に向けて何を訴えるべきでしょうか。これを今回のパネル討論会の主題としました。今回のテーマを「バージョン1」としましたのは、中国・四国地域の西部からパネリストをお呼びしたからです。東部における中国・四国の連携も考えなければなりません。やがてバージョン2、バージョン3が開催されることになると思います。

地域の皆様方のご協力により、研究集会には初日306名、2日目75名に上る多数の方々のご参加を賜り、極めて有意義な成果をあげることができました。研究集会での基調講演、パネル討論および研究報告のいずれも大変なご好評を頂き、報告書として残すべきであると考え、本誌を作成することに致しました。

本誌を作成するにあたり、基調講演をお願いしました糠谷局長、パネル討論のパネリストの方々、および研究報告者の皆様、その他関係各位のご協力を深く御礼申し上げます。

平成5年10月

広島大学経済学部附属
地域経済研究センター長 櫟 本 功

地域経済研究センター

第4回研究集会プログラム

共通テーマ 中国・四国地域の連携：バージョン1

日程：平成5年1月13日(水)・14日(木)

会場：広島県民文化センター 多目的ホール

主催：広島大学経済学部附属地域経済研究センター
地域経済研究推進協議会

■1月13日(水)

- 13:00-13:20 開 会 式
挨拶 榎 本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長)
中 島 正 雄 (地域経済研究推進協議会会長)
- 13:20-14:20 基 調 講 演
「四全総の総合的点検と今後の課題」
糠 谷 真 平 (国土庁計画・調整局長)
- 14:40-17:30 パネル討論会
「中国・四国地域の連携：バージョン1」
司 会 榎 本 功 (広島大学経済学部教授)
発 言 者 深 野 和 夫 (山陰合同銀行会長)
岩 城 正 之 (日本開発銀行広島支店長)
和 氣 成 祥 (広島県豊田郡瀬戸町長)
田 中 有 男 (いよぎん地域経済研究センター取締役社長)
助 言 者 糠 谷 真 平 (国土庁計画・調整局長)
- 18:00-19:30 懇 親 会
会 場 広島県民文化センター 5F サファイアの間

■ 1月14日(木)

9:30-12:00 研究報告

座長 若井 具 宜 (広島県立大学経営学部助教授、
地域経済研究センター客員研究員)

「高速自動車道の開通整備に伴う地域経済効果」

報告者 矢田 肇 ((社)中国地方総合研究センター
第一研究部主任研究員)

討論者 塚口 博 司 (京都大学工学部助教授)

「広島都市圏における年収5倍のマイホーム実現のために」

報告者 合谷 和 洋 ((財)ひろぎん経済研究所調査研究部次長)

討論者 柏谷 増 男 (愛媛大学工学部教授、
地域経済研究センター客員研究員)

「岡山県民の余暇・レジャー動向」

報告者 小川 雄 三 ((財)岡山経済研究所研究員)

討論者 田中 潔 (岡山商科大学商学部助教授)

13:00-16:40 研究報告

座長 山下 彰 一 (広島大学経済学部教授、
地域経済研究センター研究員)

「中山間地の生きがい環境と定住化」

報告者 吉田 幹 男 ((株)地域デザイン研究所所長)

討論者 野原 建 一 (広島県立大学経営学部教授)

「山陰におけるFAZ(フォーリン・アクセス・ゾーン)の可能性」

報告者 森田 輝 雄 ((株)山陰経済経営研究所調査役)

討論者 山田 一 郎 (鳥根大学名誉教授)

「愛媛県内女性の就業意識と変わりゆく労働環境」

報告者 正岡 啓 ((株)いよぎん地域経済研究センター
取締役調査部長)

討論者 井上 詔 三 (広島大学経済学部教授)

「山口県の人口問題と地域づくり」

報告者 宗近 孝 憲 ((財)山口経済研究所研究員)

討論者 戸田 常 一 (広島大学経済学部教授、
地域経済研究センター主任研究員)

挨拶

広島大学経済学部附属

地域経済研究センター長 櫛 本 功

地域経済研究センター長を務めております櫛本でございます。今日は地域経済研究推進協議会との共催で、第4回の研究集会を開催いたします。開催につきまして、大変皆様方の協力を得、かつ多数ご参加いただきましてありがとうございます。



ご案内のように、地域経済研究センターは平成元年生まれでございます。今年度が第4年度目でございます。私どものセンターおよび協議会は、毎年3つばかりのプロジェクトを行っております。1つはシンポジウム、1つは私どもも人材育成ということを謳っておりますので研修セミナー、これも2日間にわたりまして講義的にやっております。そして本日の2日間にわたります研究集会。これがわれわれの一番大きなプロジェクトでございますが、ようやく今回、4年度目の最後のプロジェクトをさせていただくことになりました。

本日はご案内のように国土庁の計画・調整局長さんの糠谷さんをお招きいたしました。後ほどご紹介があるかと思いますが、糠谷局長さんはかつて四全総をお作りになりましたときの担当課長さんでございました。その後、私ども、今回ご出席賜るようにお話を申しあげました段階では企画庁の審議官をなさっておられまして、宮沢首相の生活大国の案をお作りになりました責任者でいらっしゃいます。その後、今の国土庁の計画・調整局長さんにご就任になられて、巷岐で申します次の五全総の担当局長さんでいらっしゃいます。今日は一時間ばかり基調講演を賜って、国全体の方向をお話賜りたいと思っております。続きまして、「中国・四国地域の連携：バージョン1」ということで、パネル討論会を開かせていただきます。

それから明日は、研究報告会を開催いたします。昨年までは中国5県の6つのシンクタンクの方々にそれぞれ討論を含めまして1時間ずつの基調講演を賜っておりましたが、今年度はこの中国5県の6つのシンクタンクと共に、松山から「いよぎん地域経済研究センター」の方のご報告もいただきます。これでシンクタンクの方々のご報告も中国地方だけではなくて、四国地方まで入っていただいたということになります。将来的には、四国の4県のシンクタンクの方々にもお入りいただければ、ますます中国・四国の連携ができるのではないかなというふうを考えているところでございます。

皆様方、大変お忙しいところお集まりいただきましたが、是非とも本日及び明日のいろいろな議論、討論にご参加賜わり、参考にして頂ければと考えておりますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

挨拶

地域経済研究推進協議会会長 中 島 正 雄

地域経済研究推進協議会の会長をしております中国経済連合会の専務理事の中島でございます。本日はご多忙のところを、広島大学経済学部附属地域経済研究センター並びに当協議会の共催により「第4回研究集会」を開催いたしましたところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございました。開会に先立ちまして一言ご挨拶をさせていただきます。



地域経済研究推進協議会と申しますのは、先ほど樺本教授の方からお話ございました広島大学経済学部附属地域経済研究センターが、平成元年の5月に設立されたわけでございますが、これを機会に地域経済に関する研究活動を一層推進いたしまして、地域経済の活性化を図るということを目的としまして、センターができました翌年の平成2年の4月に地元の産官学の方々にご参加をいただきまして設立され、まもなく3年を迎えようとしているわけでございます。この間、会員の皆様方の絶大なるご支援のもとに研究集会、シンポジウム、研究会、セミナーなど多彩な行事を地域経済研究センターとの共催で行って参りました。また、これらの行事の成果を報告書として刊行することによりまして、地域経済の活性化を図っているわけでございます。

今回の研究集会は、「中国・四国地域の連携」をテーマといたしまして、本日と明日の2日間にわたり、基調講演、パネル討論会、研究報告、こういうものをさせていただこうと存じておるわけでございます。本日はまずこれから、国土庁計画・調整局の糠谷局長から「四全総の総合的点検と今後の課題」をテーマに基調講演をしていただきます。この基調講演を受けまして引き続き、山陰合同銀行の深野会長、日本開発銀行広島支店の岩城支店長、豊田郡瀬戸田町の和氣町長、いよぎん地域経済研究センターの田中社長、この4方によりまして、糠谷局長を助言者として、地域経済研究センター長の樺本教授の司会のもとにパネル討論会を開催いたすわけでございます。国土庁の糠谷計画・調整局長を始め、パネル討論の討論者の方々には大変ご多忙のところお出ましをいただきまして誠にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。活発なご討論がいただけるものと楽しみにしておるわけでございます。特に糠谷局長には業務ご多端の中をわざわざお越しいただき、貴重なご講演をいただくことになりまして、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

また明日は、中国5県のみならず、先ほど樺本教授の方からお話もございましたよう

に、四国側からも愛媛県の民間シンクタンクであります、いよぎん地域経済研究センターにもご出席をいただきまして中国・四国地域の連携ということをテーマに様々な角度から午前午後にわたりましてあわせて7県の研究報告をしていただくことになっております。報告者はもとより、座長並びに討論者の方々には、諸事御多忙の中をお越しいただきましてどうもありがとうございます。今回の研究集会が地域の発展に寄与すると共に、ご出席の皆様方にとって意義あるものとなることを確信しておるわけでございます。

最後に一言、当協議会への入会のご案内をさせていただきたいと存じます。地域の産官学の方々のご協力によりまして、現在48団体の方々にご入会をいただいております。今後一層活動を活発に推進するために、より多くの皆様方にご入会いただきたいと思います。宜しくご支援の程をお願いいたします。入会手続きの詳細につきましては、中国经济連合会の中に当協議会の事務局がございますので、そこにお問い合わせをいただければ大変幸せだと存ずるわけでございます。どうぞ最後までご静聴くださいますようお願いをいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。